

小児専門医療施設の整備方針について

こどもの未来を守るための小児専門医療施設

小児がんの拠点機能

医療機能の集約により

- ・ 症例数の増加による医師の幅広い経験の蓄積
- ・ チャイルド・ライフ・スペシャリストによる小児がん患者等のサポート
- ・ 長期滞在支援施設（ドナルド・マクドナルド・ハウス）の利用機会の向上につなげる

- ◎ 専門治療の医療水準が向上
- ◎ 患者・家族の利便性や安心感が向上



小児専門医療施設を 新潟大学医歯学総合病院に設置

※令和10年度を目途に設置を目指す



小児医療専門人材育成の機能

- ・ 高度小児専門医療を担う人材の育成環境が強化され、県内医師の技術が向上
- ・ 高度小児専門医療に従事する看護師等に必要な技能習得の場として機能

小児集中治療の拠点機能

人員体制の拡充により

- ・ 専門医の確保による救命に必要な医療の質の向上
- ・ 県内で専門医を育成することによる持続的な専門医確保の実現
- ・ 県内全体の重症小児の遠隔医療など、地域病院の診療支援の強化につなげる

- ◎ 24時間、安定した治療を実現
- ◎ 治療直後や将来の患者の状態（予後）の改善



小児がんと重症小児の治療に対応した
県内唯一の拠点施設を実現

こどもの未来を守る救命・治療を実現できる体制を構築
⇒ 「子育てに優しい社会の実現」に寄与

小児専門医療施設の整備に向けた検討状況：小児医療あり方検討会報告書の概要

1. 新潟県 小児医療あり方検討会報告書（R3.2）

R元年6月に「新潟県小児医療あり方検討会」が設置され、県内の専門性の高い小児医療に関する現状を分析し、今後目指すべき医療の方向性について検討が進められた。計6回の検討会を経て、R3年2月に報告書が公表された。

2. 施設形態

限られた医療資源の有効活用のため、例えば新大病院などの県内で医療資源が豊富な**既存の総合病院（1か所）に必要な機能を付加する形で整備**することが望ましい。

3. 主な施設機能

①小児集中治療：

第1ステップ：喫緊の課題である「周術期管理の機能強化」

第2ステップ：患者見込数や専門施設への機能集約の状況を踏まえたPICUの整備

②小児がん：患者の利便性や専門性の高い医師の育成等の観点から、専門医療施設に集約すべきだが、課題整理や施設整備の検討、関係機関による綿密な調整等が必要

③長期滞在施設：現在進められているマクドナルドハウスの整備は重要であり、整備に当たっては、行政による支援も必要

4. 整備方法・時期

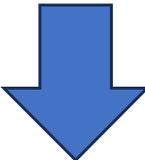
- ・機能を付加する病院において**今後実施される建物改修等に合わせて、必要な機能を整備**していく形が望ましい
- ・小児集中治療（第1ステップ）及び長期滞在施設については1～2年以内に整備し、その他については関係者間の調整等に取り組み、**およそ5～6年後を目途に整備等を開始**していくことが望ましい

小児医療あり方検討会報告書との比較

【R3.2 小児医療あり方検討会の報告書：小児専門医療施設に備えるべき機能の方針】

	小児がん	小児集中治療	
		【ソフト】	【ハード】
課題	<ul style="list-style-type: none"> 新大と県立がんセンターで機能が分散し、患者の利便性が低い 症例増による医師の幅広い経験の蓄積が必要 	専門医養成の場が必要 (専門医の不足)	集中治療を提供する 病床の不足
短期的対応 (1~2年以内に整備)	—	周術期管理機能の強化	
中長期的対応 (5~6年後 (R8~9年度) の整備等開始が望ましい)	機能集約	PICU整備	<ul style="list-style-type: none"> 成人と分かれて治療を受けられる病床の整備 小児患者特有に必要なとされる医療や常時看護ができる体制の整備 専門医を養成できる環境の整備

【R7までの進捗と今後の取組の方向性】

	小児がん	小児集中治療	
		【ソフト】	【ハード】
短期的対応 (~R7)	—	—	周術期管理機能の強化 (ICU内に小児専用病床を2床整備)
中期的対応 (R8~)	機能集約 (クリーンルーム増設等)	寄附講座設置 (診療体制・育成体制の強化)	
長期的対応	—	—	新大病院のICU全体の整備計画の中で検討を継続

小児集中治療の体制整備の検討経過

1. 現状と課題について

- 新大病院のICUには、小児専用病床がなく、成人と近接した環境で治療してる。
- 新大病院にのみ小児集中治療のチーム（医師の体制：病院助教1名＋医員）が存在するが、人員は不足している。
- 各診療科の一般病棟において、重症小児の管理が行われるケースがある。
- 新大病院のICUは85%以上の高稼働率であり、病床が不足傾向にあるが、建物改修等の制約により、既存の施設では、これ以上の病床拡充が困難である。

2. 課題への対応

【早期に実現可能な形で、拠点機能を整備】

- ICUにおけるこれまでの小児患者の受入れ実態を踏まえて、ICU 12床のうち小児専用病床を2床整備し、成人と分かれた環境で重症小児患者を治療する体制を整備した。（R5実施）
- ICUにおいて、24時間、安定した治療を実現するとともに、一般病棟に入院する重症小児患者にも手厚い治療を行うため、人員体制を拡充する。（R8予定）

【長期的な検討を要する対応】

今後、さらなる拠点機能の向上（病床拡充）については、将来的な医療需要などを踏まえた機能集約の必要性や、新大病院の整備計画の状況などを踏まえながら検討。

小児がん診療体制整備の検討経過

1. 現状と課題について

- 小児がんの診療機能の集約にあたっては、クリーンルーム等の専門的な施設が必要となる。
- 円滑な機能集約のために、医療スタッフの配置や、患者の移行に向けた検討が必要となる。
- 新大病院が目指す「小児がん拠点病院」の指定には、医療スタッフの確保や、さらなる症例の集積が必要となる。

2. 課題への対応

- 集約に伴い、新大病院において小児がん患者の増加が見込まれることから、小児病棟において、クリーンルーム等の整備を実施する。（必要病床数や具体の整備内容は、新大病院において検討中）

【参考】

R3 新大病院とがんセンターの「初発の小児がん患者数」

・新大病院 : 52人（血液がん14人、固形がん38人）

・がんセンター : 10人（血液がん 8人、固形がん 2人）

出典：令和5年度第1回新潟県がん診療連携協議会 資料9

- 今後、新大病院とがんセンターにおいて、円滑な移行に向けて検討・調整を実施する。
- 新大病院において、人員確保や症例の集積など、「小児がん拠点病院」の指定に向けた取組を推進する。

県の支援策の概要（R8当初予算要求の概要）

こどもの未来を守る小児専門医療施設支援事業（R8当初：33,890千円）

新潟大学医歯学総合病院が実施する小児専門医療施設の整備について、小児がん診療と小児集中治療の体制強化に向けた支援を行う。

	小児がん拠点施設整備補助事業	小児集中治療学講座設置費
事業目的	症例の集積による医療の質の向上や患者及びその家族の利便性向上を目的とした小児がん拠点施設の整備に対する支援を実施	小児集中治療の診療機能及び教育体制の強化を目的とした寄附講座を設置
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・集約に伴い増加が見込まれる小児がん患者を受け入れるため、クリーンルームや、4床室の個室化などの整備を実施 ・小児病棟改修費は総額2億円程度を想定 ※現在検討中の新大病院の整備計画の状況によって金額の変動可能性あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟大学大学院医歯学総合研究科に小児集中治療に関する講座を設置（教員3名を配置予定）
R8当初予算	設計費支援：4,400千円 （設計費用：6,600千円×補助率2/3） ※施設・設備整備への補助はR9年度に予定	R8年度～R10年度（3年間）の寄附講座の設置費 講座設置費：29,490千円 （3年間の総額：88,470千円）

小児専門医療施設の整備スケジュール

